

資料 3 科目設定表



総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	T1 構想・企画段階のものづくり力
科目の目標	T1_1 関連情報から企画を提案できる T1_2 知的財産情報を収集・分析できる T1_3 既存技術か新規技術が必要かを判断ができる T1_4 企画・構想を提案書にまとめられる T1_5 企画内容から抽出した課題を技術面から詳細評価できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
T1_1	関連情報から企画を提案できる	何を調べなければならないか、述べさせる
T1_2	知的財産情報を収集・分析できる	関連する特許を検索し、比較検討させ、既存特許に抵触する場合の技術的回避策を提案させる
T1_3	既存技術か新規技術が必要かを判断ができる	新たに得た知識を分類し、サマリーレポートを作成させる サンプルとして作ったデータベースにアクセスさせる
T1_4	企画・構想を提案書にまとめられる	新製品のあいまいな形のリクエストをして、それに対し、概要の提案をださせる
T1_5	企画内容から抽出した課題を技術面から詳細評価できる	企画に対する技術的評価基準を文書化し、これに基づき企画書を評価させる

訓練の概要	
1章	構想・企画段階のものづくり力 1節 技術的ギャップの洗い出し 2節 製造技術の切り分け 3節 日常的な情報収集と分析
2章	知的財産情報の収集・分析 1節 知的財産情報の収集 2節 特許情報の扱い方
3章	技術への取り組み判断 1節 継続的な情報の収集 2節 情報システムの活用 3節 ノウハウ情報を活用するには 4節 技術要素ごとの判断
4章	提案書の作成 1節 構想・企画をまとめるには
5章	企画の評価 1節 技術面からの評価 2節 評価項目の洗い出し 3節 基準の設定 4節 評価の実施

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	T2 開発・設計段階のものづくり力	
科目の目標	T2_1	設計時のポイントを考慮できる
	T2_2	製品に関する制約条件を考慮した製品設計ができる
	T2_3	製品を具現化するにあたり、必要な技術的手法を提案でき、かつ問題点を指摘できる
	T2_4	試作品を製作（作成）および評価することができる
	T2_5	マニュアルが作成できる（または、作成支援ができる）
	T2_6	技術的側面から設計開発に要する期間の見積りと進捗管理ができる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
T2_1	設計時のポイントを考慮できる	設計時のポイントを説明させる
T2_2	製品に関する制約条件を考慮した製品設計ができる	各種考慮点を制約条件として与えて、設計図を作らせる
T2_3	製品を具現化するにあたり、必要な技術的手法を提案でき、かつ問題点を指摘できる	あるもの（製品）を作るために必要な構成要素に分解させ図示させる 構成要素を作るために必要な技術とその提案理由を説明させる
T2_4	試作品を製作（作成）および評価することができる	試作品を作らせる
T2_5	マニュアルが作成できる（または、作成支援ができる）	マニュアルを作成させる
T2_6	技術的側面から設計開発に要する期間の見積りと進捗管理ができる	開発・設計の作業を工程に分割させ、工程と所要時間の表を作成させ、所要時間の見積り理由を説明させる

訓練の概要	
1章	開発・設計について
1節	製品を作るための技術的提案
2節	設計開発に要する期間の見積り
3節	製品設計
2章	技術的手法の提案
1節	構成要素と技術手法
2節	技術手法に対する問題点
3章	試作品の制作
1節	試作品と評価計画
2節	試作品の制作と評価
4章	要求品質への考慮
1節	品質に関係するポイント
2節	設計への影響
5章	マニュアルの作成
1節	マニュアル作成にあたって
6章	設計開発の見積りと進捗管理
1節	工程表の作成
2節	工程時間の見積り
3節	進捗管理

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	T3 資材調達・生産準備段階のものづくり力
科目の目標	T3_1 生産活動の環境負荷を技術的に考慮できる T3_2 要素・材料について評価、選定できる T3_3 技術的観点から、最適な（時間・コスト）生産方法を設計できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
T3_1	生産活動の環境負荷を技術的に考慮できる	事例を与え、環境負荷とその対応策を述べさせる
T3_2	要素・材料について評価、選定できる	演習課題に関して、要素・部品の特性を評価させる 必要要素に関し、外部調達するか、自作するか決定させる
T3_3	技術的観点から、最適な（時間・コスト）生産方法を設計できる	演習課題に対して、生産工程の工程設計書を作成させる

訓練の概要	
1章	資材調達・生産準備段階のものづくり力 1節 使用部材、製品仕様、生産工程の評価 2節 安全衛生体制
2章	要素、材料についての評価、選定 1節 製品仕様に基づく特性 2節 要素・材料の調達
3章	生産方法への技術的な条件 1節 諸条件と生産方式 2節 生産設備の設計
4章	工程設計図の作成 1節 工程の構成要素と時間見積り 2節 生産方法の設計

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	T4 生産段階のものづくり力
科目の目標	T4_1 実用的な製品の加工・組立ができる T4_2 全工程中における担当工程の意味・要求水準を指摘できる T4_3 生産設備の保全計画を立てられる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
T4_1	実用的な製品の加工・組立ができる	前提知識があるかどうかの実習課題を受けさせる
T4_2	全工程中における担当工程の意味・要求水準を指摘できる	担当工程の意味、要求水準、関連工程や前後工程等との関係等を説明させる
T4_3	生産設備の保全計画を立てられる	事例を与えて、保全計画を立てさせる

訓練の概要	
1章	生産工程の前提知識 1節 前提知識1 2節 前提知識2 3節 前提知識3
2章	状態診断 1節 状態診断について 2節 予防保全
3章	生産設備の特性 1節 生産設備の保守計画
4章	安全性向上のために 1節 改善策

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	T5 流通・販売段階のものづくり力
科目の目標	T5_1 保管段階で製品の品質と環境を保持できる T5_2 製品の梱包・運搬・組立時の方法や手順を決めることができる T5_3 流通・販売の効率化と品質を製品レベルで技術的に支援できる T5_4 市場の反応を適切に評価し技術的な対応ができる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
T5_1	保管段階で製品の品質と環境を保持できる	保管計画を立てさせる
T5_2	製品の梱包・運搬・組立時の方法や手順を決めることができる	梱包、運搬、組立マニュアルを作成させる
T5_3	流通・販売の効率化と品質を製品レベルで技術的に支援できる	流通・販売の効率化の観点から、設計書の改善提案書を作成させる
T5_4	市場の反応を適切に評価し技術的な対応ができる	クレームに対して適切に判断し、可能であれば改善提案書を作成させる

訓練の概要	
1章	流通・販売段階のものづくり力強化 1節 保管・流通時の考慮点
2章	製品の梱包・運搬について 1節 製品の運搬時への配慮
3章	流通・販売の効率化と品質維持 1節 流通・販売時に係わる設計の問題点
4章	市場の反応への対応 1節 市場の反応

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	T6 アフターサービス段階のものづくり力	
科目の目標	T6_1	対象製品のライフサイクルを考慮できる
	T6_2	診断方法と対応方法を決定し、指導できる
	T6_3	事後保全ができる（指示できる）
	T6_4	保全データから技術的問題点を抽出・評価し必要な対応をとることができる
	T6_5	技術的な情報をフィードバックできる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
T6_1	対象製品のライフサイクルを考慮できる	その製品のライフサイクルの中の位置づけを説明させる
T6_2	診断方法と対応方法を決定し、指導できる	状態診断のマニュアルを作成する
T6_3	事後保全ができる（指示できる）	実習課題を課し、クリアさせる
T6_4	保全データから技術的問題点を抽出・評価し必要な対応をとることができる	保全データから技術的問題点を抽出し、対応を決定する
T6_5	技術的な情報をフィードバックできる	顧客、設計、流通、営業などフィードバック先を選択させ、フィードバック情報を文書化させる

訓練の概要	
1章	アフターサービス段階のものづくり力 1節 ライフサイクルを考慮した保全
2章	診断方法と対応方法 1節 診断、対応の実際
3章	技術的問題点の抽出 1節 事後保全 2節 保全データからの問題点抽出
4章	技術情報のフィードバック 1節 フィードバックの実際

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	T7 廃棄段階のものづくり力
科目の目標	T7_1 廃棄に関する情報を収集できる T7_2 対象が廃棄段階にあるかどうか判断できる T7_3 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の観点で技術的支援ができる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
T7_1	廃棄に関する情報を収集できる	情報収集させ、発表させる
T7_2	対象が廃棄段階にあるかどうか判断できる	事例を示して、どのように判断するか示させる
T7_3	3Rの観点で技術的支援ができる	演習課題（3次元スキャナ）でゼロエミッションを達成する計画を立てさせる 事例として規模が小さく、効果があがらない場合は、3Rの具体的事例を検討し、プレゼンテーションをさせる

訓練の概要	
1章	廃棄段階における技術的支援
1節	廃棄段階における考慮点
2章	廃棄の判断
1節	廃棄の基準と個々の状態
3章	3Rについて
1節	3Rの実践

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	M1 構想・企画段階のマネジメント力
科目の目標	M1_1 事業開発プロジェクトを推進できる M1_2 自社の現状を説明することができる M1_3 親企業・顧客からの要求に対応した構想ができる M1_4 ニーズを把握、評価して文書化できる M1_5 新しい事業、製品のコンセプトを創出し、ひとつの共有したコンセプトとしてまとめられる M1_6 技術・市場を調査できる M1_7 戦略を立案のプロセスを支援できる M1_8 事業を企画・開発できる M1_9 立案された事業を評価できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
M1_1	事業開発プロジェクトを推進できる	自社もしくは事例に対し、構想に関するプロジェクトの概要書を作成させる
M1_2	自社の現状を説明することができる	自社もしくは事例に対し、学習した方法で分析し、文書化させる
M1_3	親企業・顧客からの要求に対応した構想ができる	構想・代替案をまとめさせる
M1_4	ニーズを把握、評価して文書化できる	自社もしくは事例について分析結果を文書化させる
M1_5	新しい事業、製品のコンセプトを創出し、ひとつの共有したコンセプトとしてまとめられる	コンセプトをまとめさせ、発表させる
M1_6	技術・市場を調査できる	調査結果を文書化させる
M1_7	戦略を立案のプロセスを支援できる	戦略立案の方法や手順を説明させる
M1_8	事業を企画・開発できる	企画概要書を作成させ、発表させる
M1_9	立案された事業を評価できる	立案された企画概要書を与えて、評価させる

訓練の概要	
1章	構想・企画段階のマネジメント 1節 事業開発プロジェクトの立ち上げと推進
2章	現状の把握 1節 自社状況の把握 2節 業界の把握
3章	ニーズの把握と評価 1節 顧客要求の分析と提案 2節 市場や顧客要求の分析
4章	コンセプトの創出 1節 製品コンセプトの創出

訓練の概要	
5章	構想を戦略へ
1節	技術・市場の調査
2節	戦略立案
6章	企画概要書の作成
1節	企画のアイデアと問題解決
2節	企画の進め方
3節	企画概要書
4節	企画の評価

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	M2 開発・設計段階のマネジメント力	
科目の目標	M2_1	製品を開発するために必要な技術開発をマネジメントできる
	M2_2	開発・設計のプロセスをマネジメントできる
	M2_3	求められる品質・コスト・納期にあわせた開発・設計のマネジメントができる
	M2_4	開発・設計の組織化を推進できる
	M2_5	開発基盤を強化できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
M2_1	製品を開発するために必要な技術開発をマネジメントできる	技術開発マネジメントの方法や進め方について説明させる
M2_2	開発・設計のプロセスをマネジメントできる	事例を示し、プロセスマネジメントに必要な要点を指摘させる
M2_3	求められる品質・コスト・納期にあわせた開発・設計のマネジメントができる	事例を示し、マネジメントの重要点を指摘させる
M2_4	開発・設計の組織化を推進できる	事例または、自社の例で問題点を提示して改善案を文書化させる
M2_5	開発基盤を強化できる	開発基盤強化のための提案をさせる

訓練の概要	
1章	開発・設計段階のプロセスマネジメント 1節 技術開発のマネジメント 2節 技術の選択と採用 3節 開発・設計のプロセスマネジメント
2章	QCD (Quality Cost Delivery) の作りこみ 1節 品質優位 2節 コスト優位 3節 予算 4節 タイムベースマネジメント
3章	組織のマネジメント 1節 開発・設計段階での日常活動の管理 2節 協力・連携 3節 対外向け提案 4節 プロセスの見直し
4章	開発基盤の強化 1節 人的な問題 2節 資金、資産について 3節 開発・設計の情報基盤強化

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	M3 資材調達・生産準備段階のマネジメント力	
科目の目標	M3_1	生産準備プロジェクトをマネジメントできる
	M3_2	生産方式の適用ができる
	M3_3	効果的なレイアウト・設備・工程を計画できる
	M3_4	最適な調達、供給計画を立案できる
	M3_5	資材調達先を選定・評価・指導できる
	M3_6	外注先を選定・評価・指導できる
	M3_7	生産準備段階での原価低減活動を推進できる
	M3_8	自社の生産形態にあった情報システムを企画できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
M3_1	生産準備プロジェクトをマネジメントできる	マネジメントの方法、具体的な進め方を指摘させる
M3_2	生産方式の適用ができる	事例を与え、生産方式の特徴を説明させる
M3_3	効果的なレイアウト・設備・工程を計画できる	事例を与え、工程編成を行わせる
M3_4	最適な調達、供給計画を立案できる	事例を与え、調達及び供給計画を立案させる
M3_5	資材調達先を選定・評価・指導できる	事例を与え、資材調達先の評価ポイントを指摘させる
M3_6	外注先を選定・評価・指導できる	事例を与え、外注先の評価ポイントを指摘させる
M3_7	生産準備段階での原価低減活動を推進できる	原価低減の提案を行わせる
M3_8	自社の生産形態にあった情報システムを企画できる	情報システムの企画を立てさせる

訓練の概要	
1章	生産準備の計画と設計
1節	プロジェクトの計画と運用
2節	生産方式
3節	レイアウト計画と工程編成
2章	調達計画
1節	調達計画の立案
2節	資材調達計画
3節	外注計画
3章	原価低減
1節	原価低減活動
4章	情報システム化
1節	情報システムの企画

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	M4 生産段階のマネジメント力	
科目の目標	M4_1	生産の計画ができる
	M4_2	生産を管理できる
	M4_3	品質を管理できる
	M4_4	設備の保全ができる
	M4_5	生産システムを改善できる
	M4_6	生産の情報化に基づくシステムの運用と改善ができる
	M4_7	生産段階の BOM を作成・維持できる

評価方法		
評価(目標)項目	項目に対応する評価方法	
M4_1	生産の計画ができる	生産の計画を立案させる
M4_2	生産を管理できる	事例を与え、管理の方法と進め方をまとめさせる
M4_3	品質を管理できる	事例を与え、品質管理の方針と進め方を立案させる
M4_4	設備の保全ができる	事例を与え、設備保全の計画を立案させる
M4_5	生産システムを改善できる	事例を与え、改善案を作成させ、発表させる
M4_6	生産の情報化に基づくシステムの運用と改善ができる	事例を与え、システム運用の問題点と対処、改善方法を指摘させる
M4_7	生産段階の BOM を作成・維持できる	事例を与え、または自社の例で BOM 維持の方針を提案させる

訓練の概要	
1章	生産の計画
1節	生産計画の立案
2節	生産の経済性
2章	生産の管理
1節	生産の統制
2節	資材購買・外注の管理
3節	在庫の管理
4節	原価管理
3章	品質の管理
1節	統計的品質管理
2節	TQM (Total Quality Management)
3節	品質維持のための人材管理
4章	設備保全
1節	保全の計画と組織
2節	自主保全
3節	設備管理
5章	安全・規格・標準
1節	生産の安全・規格・標準
6章	生産システムの改善
1節	改善の着眼とその進め方
7章	生産情報システム
1節	生産の情報化
2節	BOM (Bill of Materials) について

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	M5 流通・販売段階のマネジメント力	
科目の目標	M5_1	マーケティング戦略に基づいた販売計画の立案を支援できる
	M5_2	受発注に関する支援ができる
	M5_3	技術系職種として販売・営業活動を支援できる
	M5_4	物流に関する活動を支援できる
	M5_5	市場の評価情報を収集し、分析できる
	M5_6	顧客を管理できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
M5_1	マーケティング戦略に基づいた販売計画の立案を支援できる	販売計画の進め方を説明させる
M5_2	受発注に関する支援ができる	受発注業務の進め方を説明させる
M5_3	技術系職種として販売・営業活動を支援できる	事例を与え、どのような販売支援活動ができるかを討議させる
M5_4	物流に関する活動を支援できる	物流活動の内容を説明させる
M5_5	市場の評価情報を収集し、分析できる	事例を与え、どのように分析、対応すべきかをまとめさせる
M5_6	顧客を管理できる	顧客の管理方法や、購買履歴の活用の仕方を指摘させる

訓練の概要	
1章	流通・販売段階のマネジメント
1節	販売計画
2節	受発注支援
3節	販売・営業支援
2章	物流に関する活動支援
1節	物的流通
3章	市場に対する活動
1節	市場評価情報の収集と分析
2節	顧客の管理

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	M6 アフターサービス段階のマネジメント力
科目の目標	M6_1 保全に関して客先支援ができる M6_2 アフターサービス体制を確立できる M6_3 情報システムの整備と利用ができる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
M6_1	保全に関して客先支援ができる	客先支援に関する計画を作らせる
M6_2	アフターサービス体制を確立できる	事例を与え、アフターサービスの計画を立てさせる
M6_3	情報システムの整備と利用ができる	アフターサービスの要件にあう情報システムの計画を考えさせる

訓練の概要	
1章	保全に関する客先支援 1節 保全計画の支援 2節 保全に関する支援
2章	顧客へのアフターサービス 1節 アフターサービス体制
3章	アフターサービス段階の情報システム 1節 情報システムの整備と利用

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	M7 廃棄段階のマネジメント力
科目の目標	M7_1 環境マネジメントに関する知識を有し、環境を意識して活動できる
	M7_2 国際規格や環境法規を理解し、専門的に活用できる
	M7_3 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の仕組みを持つマネジメントシステムを理解し、自社に応用できる
	M7_4 環境遵守、環境適合性に関する自社及び製品に関する情報を提供し、管理できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
M7_1	環境マネジメントに関する知識を有し、環境を意識して活動できる	自社製品の環境影響を考えさせ、環境に配慮すべき事項を整理させる
M7_2	国際規格や環境法規を理解し、専門的に活用できる	事例を与え、考慮すべき国際規格や環境法規をまとめさせる
M7_3	3Rのしくみを持つマネジメントシステムを理解し、自社に応用できる	自社製品に関して、どのように3Rを推進できるか、考えさせ、発表させる
M7_4	環境遵守、環境適合性に関する自社及び製品に関する情報を提供し、管理できる	どのような情報を提供すべきかを考えさせ、発表させる

訓練の概要	
1章	国際規格・環境法規との関係
1節	環境を意識した活動
2節	環境法規の遵守
2章	3Rを意識したマネジメント
1節	3Rの推進
3章	情報の管理
1節	情報の管理と公開

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	HA 情報分析・問題発見力
科目の目標	HA_1 本質的な課題を発見できる HA_2 課題を手順を踏んで指摘できる HA_3 課題の解決策を見出すことができる HA_4 情報を分析できる HA_5 解決策（妥協案）を詳細化し、実行できる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
HA_1	本質的な課題を発見できる	ある状況を提示して問題を指摘させる 事例の中で、課題発見の手順を使っているか評価する 手順を使った結果、発見すべき課題を発見したか評価する
HA_2	課題を手順を踏んで指摘できる	状況を設定して、発見した課題を指摘する手順を計画させる 利害関係者にどのように説明するか、説明を計画させる 利害関係者との説得場面をシミュレーションする
HA_3	課題の解決策を見出すことができる	課題を与えて問題解決の仮説を立てさせる 課題を与えて情報収集の計画（項目・メディア）を立案させる 各情報を収集する目的を説明させる 課題（情報収集計画）を与えて情報を収集させる 収集した情報の内容、情報源、信憑性を説明させる 収集した情報メディアごとに配慮した事項を説明させる 問題解決のための仮説を立てさせ、問題を特定させる
HA_4	情報を分析できる	収集した情報の説明資料を作成させる
HA_5	解決策（妥協案）を詳細化し、実行できる	解決策とその実行計画を発表させる 解決実行をシミュレートし、不測事態を指摘させる

訓練の概要	
1章 課題の発見	
1節 論理思考	
2節 現状の観察	
2章 課題解決への手順	
1節 指摘と説得	
2節 課題指摘と説得の背景	
3節 課題を指摘する	
4節 問題解決のための仮説を立てる	
3章 情報収集と分析	
1節 分析結果の扱い	
2節 情報メディアからの収集	
3節 情報収集の応用動作	
4節 問題に対する条件	
5節 課題発見と解決方向の表現	
4章 収集・分析したデータの文書化	
1節 文書化と図面化	
5章 解決策の実行	
1節 実行計画	

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	HB コミュニケーション力
科目の目標	HB_1 相手との間に信頼関係を築くことができる HB_2 コミュニケーションの結果を集約して望ましい結論に導くことができる HB_3 相手の意見を受容できる HB_4 説明すべきことがらを整理し、口頭、文書、プレゼンテーションで相手に伝えることができる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
HB_1	相手との間に信頼関係を築くことができる	研修参加状態で評価する 相手について把握した情報を記述させ、どのような服装や髪型がふさわしいか選ばせる そのときのスタイルが、どのような場にふさわしいものか記述させる ロールプレイで、いろいろな態度を意識的に作ってみさせる ほかの学習者のロールプレイを見て、学習内容との関連を指摘させる
HB_2	コミュニケーションの結果を集約して望ましい結論に導くことができる	グループ演習時に、学習者の態度を観察する
HB_3	相手の意見を受容できる	グループ演習時に、学習者の態度を観察する または、ロールプレイさせ、観察する
HB_4	説明すべきことがらを整理し、口頭、文書、プレゼンテーションで相手に伝えることができる	シナリオを作成させ、プレゼンテーションさせる 学習者が今後活用できるシーンを選ぶ

訓練の概要	
1章	信頼関係の構築
1節	場と相手の理解
2節	好感をもたれる身だしなみ
3節	好感をもたれるふるまい
4節	コンプライアンス
5節	違反行為への対処
2章	ファシリテーション
1節	対立する意見の調整
2節	反対意見を引き出す
3章	情報の受容
1節	傾聴力
2節	口頭で伝達された情報の受容
3節	文書で伝達された情報の受容
4節	相手のふるまいから情報を受容
4章	情報の伝達
1節	パーソナリティ
2節	シナリオの決定
3節	口頭で伝える
4節	文書で伝える
5節	プレゼンテーションで伝える

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	HC リーダーシップ力	
科目の目標	HC_1	自らを律してチームを牽引できる
	HC_2	チーム内の状態を把握できる
	HC_3	チームメンバーの能力に加え、プロジェクトへの積極性に 応じて指示、支援、委任ができる
	HC_4	協力してもらえ環境を整えられる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
HC_1	自らを律してチームを牽引できる	事例を示し、どのように行動すべきか指摘させる 自分の仕事の中でのタイムマネジメント、ストレスマネジメントについて発表させる
HC_2	チーム内の状態を把握できる	評価する事例を与えてチーム内の状態を記述させる
HC_3	チームメンバーの能力に加え、プロジェクトへの積極性に 応じて指示、支援、委任ができる	評価する事例を与えて取るべき振る舞いを指摘させる
HC_4	協力してもらえ環境を整えられる	チームで演習を行わせ、その中での行動を観察する

訓練の概要	
1章	自己管理能力を伸ばそう 1節 チャレンジしよう 2節 役割となすべきこと 3節 仕事と自分の能力 4節 仕事と社会
2章	チームの状態を把握する 1節 チームについて 2節 チームにあるものと無いもの
3章	チームメンバーとの関係 1節 チームの状況の把握 2節 状況への対応
4章	チームと外部の関係 1節 チームの外の状況把握 2節 チームから外へ 3節 チームメンバーに対して 4節 外部からチーム内部へ 5節 チーム力を高める 6節 会議を有意義にする

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	HD 指導力
科目の目標	HD_1 職場にある仕事のノウハウの記述ができる HD_2 能力に応じて人材を配置できる HD_3 自部門の人材育成計画が立てられ、実践できる HD_4 自部門の仕事、要素作業を行うための指導ができる HD_5 指導を準備できる HD_6 訓練を展開できる HD_7 指導方法を選択できる HD_8 動機付けができる

評価方法		
評価(目標)項目	項目に対応する評価方法	
HD_1	職場にある仕事のノウハウの記述ができる	自分の職場の、または、事例において作業を分析させ、記述させる 自分の仕事、または事例の中で困難を感じる箇所を記述させ、解決法を記述させる
HD_2	能力に応じて人材を配置できる	職場で必要とする仕事とその仕事の技術・技能レベルをあげ、人材配置のプランを述べさせる
HD_3	自部門の人材育成計画を立てられ、実践できる	自部門もしくは事例で、人材育成計画を立てさせる
HD_4	自部門の仕事、要素作業を行うための指導ができる	立てた人材育成計画から訓練計画を導かせる
HD_5	指導を準備できる	作業分解させ、指導案を作らせる
HD_6	訓練を展開できる	実習を含む訓練活動を実際に行わせる ロールプレイで何らかの作業の指導をさせる 事例について、ロールプレイで指導をさせる
HD_7	指導方法を選択できる	指導方法を選択させる
HD_8	動機付けができる	指導を実際に行わせ、指導のポイントを述べさせる

訓練の概要	
1章	職場のノウハウの共有 1節 職場の仕事の分解と人材育成計画 2節 人材育成計画の進行管理 3節 人材育成の実践 4節 情報の共有化
2章	職場の業務と人材配置 1節 職場で必要とされている能力 2節 個々の作業者の能力 3節 作業者の配置
3章	人材育成計画と計画の実践 1節 作業者の能力評価 2節 人材育成の活動 3節 計画進行の管理 4節 人材育成計画の実践段階

訓練の概要	
4章	指導の準備 1節 作業に分解する 2節 指導案の作成手順 3節 教材の選択
5章	訓練の実際 1節 訓練の開始 2節 学習内容の提示 3節 作業実習 4節 訓練の評価
6章	指導方法の選択 1節 経験と訓練 2節 課題による訓練 3節 経験と課題
7章	評価とフィードバック 1節 指導の準備 2節 指導時の目標管理 3節 フィードバック

総合的ものづくり人材育成カリキュラム 科目設定表

科目名	HE 計画推進力	
科目の目標	HE_1	ツールなどを利用してプロジェクトマネジメントができる
	HE_2	実行可能なプロジェクトの計画が立てられる
	HE_3	プロジェクトの推進ができる

評価方法		
評価(目標)項目		項目に対応する評価方法
HE_1	ツールなどを利用してプロジェクトマネジメントができる	プロジェクトマネジメントについて自分なりの言葉で簡潔に説明させる
HE_2	実行可能なプロジェクトの計画が立てられる	実際のまたは、事例でプロジェクト計画を立てさせる
HE_3	プロジェクトの推進ができる	事例でプロジェクトのさまざまな場面における対応を述べさせる

訓練の概要	
1章	プロジェクトの立ち上げ
1節	プロジェクトとは
2節	プロジェクトマネジメントツールの利用
3節	プロジェクトで明確にしておくべきこと
4節	WBS (Work Breakdown Structure) の作成
5節	マイルストーンの設定
6節	プロジェクトの計画
2章	プロジェクトの推進
1節	プロジェクト進行のモニタリング
2節	プロジェクトのコントロール
3節	プロジェクト進行の是正
4節	プロジェクトの推進